

## 田瀬ダム貯水池におけるアオコの発生について

7月6日に田瀬ダム貯水池において今年初めてアオコの発生を確認しましたのでお知らせします。

発生したのはダムサイトの右岸で、岸沿いに幅3m、長さ15m程度の規模で水面が薄い緑色になりました。

7月7日午前中に船により貯水池の巡視を行った結果、入り江になっている所の数箇所湖岸沿いにアオコが発生しているのを確認しました。

田瀬ダム管理支所では今後巡視を強化してアオコの発生状況の把握に努めることにしています。

なお、アオコの発生を抑制するために平成19年度から運用を開始した水質保全施設は7月4日から稼働を行っています。

### 【経緯】

- 7月6日午後3時頃、ダムサイト右岸部の岸沿いにアオコ<sup>\*1</sup>が発生して水面が薄い緑色になっているのを田瀬ダム管理支所職員が確認。規模は幅3m、長さ15m程度。
- 7月7日午前、船により貯水池の巡視を実施した結果、ダムサイト右岸部のアオコは消滅していましたが、入り江になっている所の数箇所で湖岸沿いにアオコが発生しているのを確認しました。

### 【今後の対応】

- アオコの発生を抑制するため、引き続き水質保全施設<sup>\*2</sup>の稼働を行います。水質保全施設は7月1日からの稼働を予定していましたが、6月29日夜からの降雨により7月1日からダム放流を行ったため、ダム放流が終了した7月4日正午から稼働を開始しました。水質保全施設は9月30日までダム放流時を除き毎日稼働します。
- アオコの発生状況を把握するため、陸上と船からの巡視を行います。陸上からの巡視は週2回、船による巡視は週1回行うことにしています。

### 【昨年の発生状況】

- 昨年は7月12日にダムサイトで確認したのが最初で、10月14日以降は確認されていません。
- アオコの発生頻度が高いのは、ダムサイト左右岸と白金橋付近から上流部ですが、他の場所でも湖岸の入り江になっている所を中心に発生しています。

※1 アオコとは、湖水の窒素やリンなどの栄養分、天気、水温等が複雑に絡みあい、特定の植物プランクトン（藍藻類：ミクロキスティスなど）が異常増殖し、水面に緑の膜が浮かび上がる現象のことで発生する富栄養化現象の1つです。

※2 水質保全施設とは、ダム貯水池内に空気を噴出させ、鉛直方向に循環する流水により、水温を下げることによってアオコの発生を抑制する施設で、平成 19 年から稼働し、毎年7月1日から9月30日ので稼働しております。

※ 瀬湖に発生しているアオコは、湖面利用には影響ありません。



ダムサイト右岸に発生したアオコ（7月6日）



水質保全施設の稼働状況（7月6日）



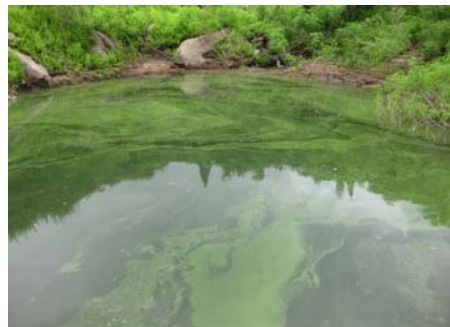
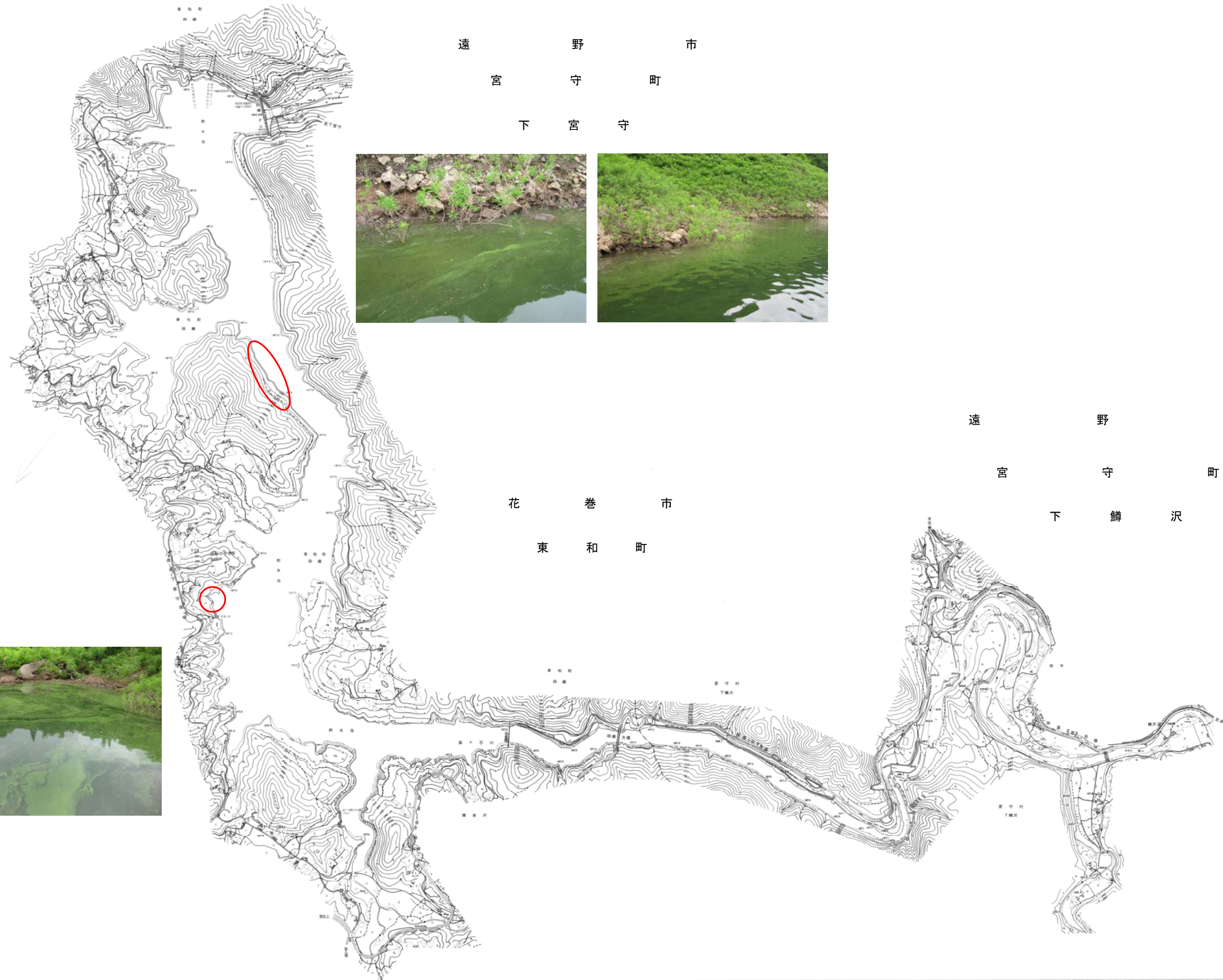
入り江の湖岸沿いに発生したアオコ（7月7日）

北上川ダム統合管理事務所ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/>

※発表記者会：岩手県政記者クラブ

問い合わせ先
国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所 電話 019-643-7831(代) 技術副所長 鈴木弘二 (内線204) 管理第一課長 砂子勉 (内線331) 田瀬ダム管理支所 電話0198-44-5211 田瀬ダム管理支所 千葉茂美 (内線21)

田瀬ダム貯水池平面図



1 : 10,000